

東京薬科大学 新入教員のためのミニ教育ワークショップ

報告書



平成 26 年 4 月

F D 実施委員会

平成 26 年度 東京薬科大学 新入教員のためのミニ教育ワークショップ

実施日：平成 26 年 4 月 4 日(金)、5 日(土) 会場：教育 5 号館 2 階

ディレクター：笹津学長
 オブザーバー：FD 実施委員会委員長、学部長
 主催：全学FD実施委員会
 事務局：学務課

出席者：笹津学長，山岸委員長，新榎葉学部長
 タスクフォース：大野、杉浦、稲葉
 学務課：高山、葛西、酒井

参加者

	Aグループ	Bグループ
1	岸本 久直	林 秀樹
2	平島 真一	藤原 泰之
3	茨木 ひさ子	中島 康介
4	田所 弘子	山中 大輔
5	渡部 徹郎 ※	桑原 直子
6	倉本 敬二 ※	星野 裕子 ※

※5 日のみ参加

プログラム

4月4日(金曜日)

9:20 受付開始(教育5号棟・5204教室)
 9:30 開会式、オリエンテーション
 10:00 作業説明(1)
 10:15 SGD1 自己紹介、KJ法(SGD, 5205, 5206, 教室)
 11:45 発表、合同討議
 12:15 昼食
 13:00 作業説明(2)
 13:30 SGD2 目標設定
 15:00 発表
 15:20 コーヒーブレイク
 15:40 作業説明(3)
 16:00 SGD3 方略立案
 17:30 発表、合同討議
 18:15 夕食、懇親
 19:00 終了

4月5日(土曜日)

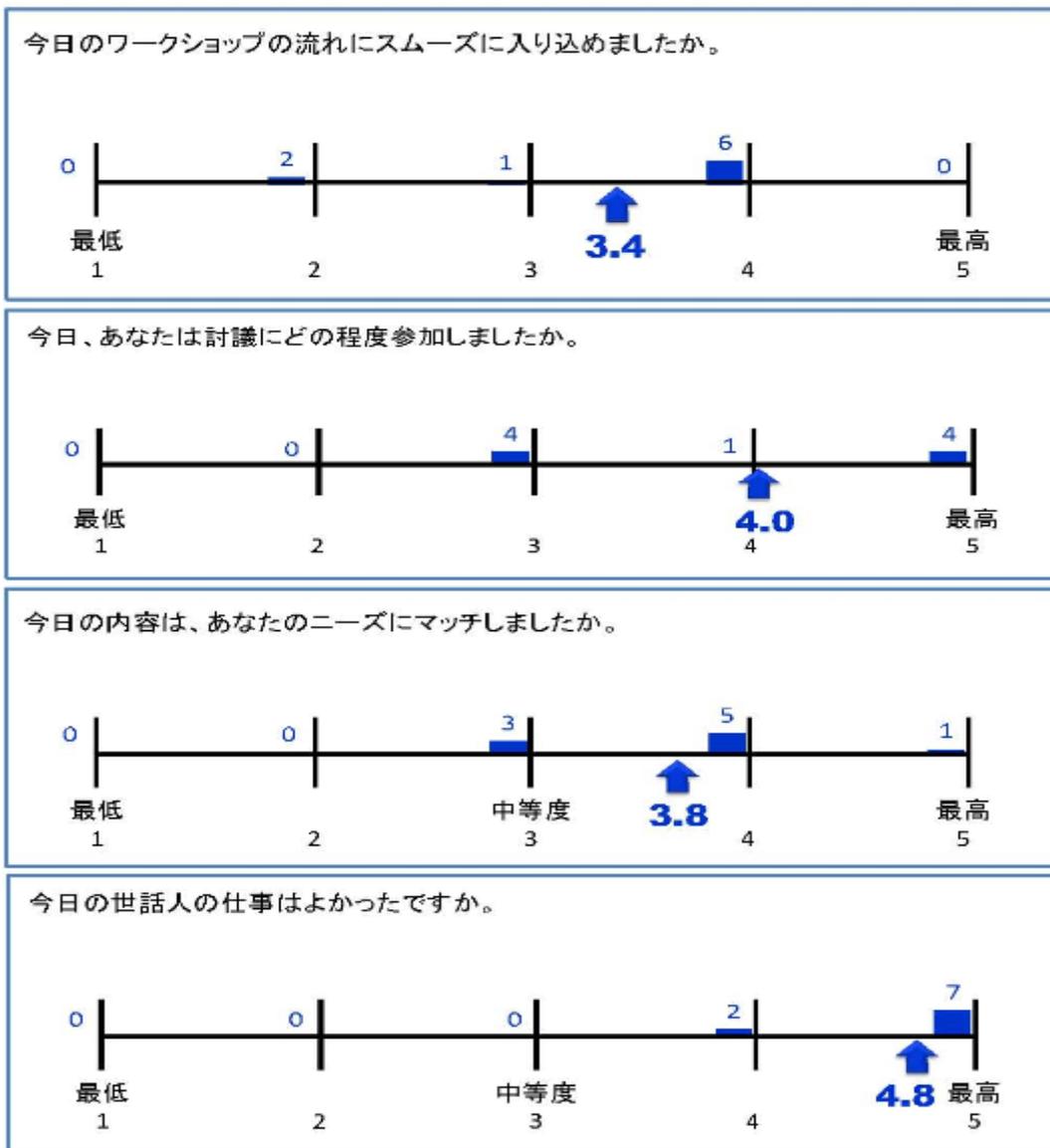
9:30 集合
 9:40 作業説明(4)
 10:10 SGD4 評価立案
 11:40 発表、合同討議
 12:10 昼食
 13:00 総合討論
 14:00 閉会式

ワークショップの様子





第 1 日の評価



【よく理解できたこと】

- ・GIO と SBOs の関係
- ・教育についての基本
- ・カリキュラムについて
- ・カリキュラム作成の難しさ
- ・学習者が目標に向かって努力するのが教育者ということ
- ・積極性が大切
- ・ニーズに対応した教育が大切
- ・学習とは変わることである
- ・1つの内容について深く追求することの難しさ

【あまり理解できなかったこと】

- ・大学教育をよくするための根本的な解決点
- ・どこまで具体的に考えればいいのか
- ・細かな授業内容の組み立てについて
- ・実際の 1 ユニットあたりの時間数や基本的な部分

【その他の意見・感想】

- ・三役の役割分担があまり明確ではなかったため、この点を改善したほうが良いと感じた
- ・人数が少なかったため、もう少し多くの意見や発表が聞けるとよかった
- ・カリキュラムについて考えたことがなかったため、大変興味深かった
- ・次回はもっと自分の意見を言えるようになりたい

総合アンケート・ポストアンケート 結果

	賛成		どちらともいえない		反対	
	プ	ポ	プ	ポ	プ	ポ
1.カリキュラムとは、学科別時間配分表のことである。	2	0	5	0	2	12
2.教育目標は、教授者が何をなすべきかを明確に規定したものである。	3	0	3	2	3	10
3.学則で教育理念が示されていれば、教育の不十分な部分を容易に発見できる。	1	0	3	5	5	7
4.教育目標を設定しておかなくても、正しい評価は科可能である。	1	0	2	1	6	11
5.知識を獲得するためには、講義を聴くのが最良の方法である。	0	1	5	1	4	10
6.問題解決の教育には、指導者が問題解決の仕方を示さなくては学習者が問題解決能力を修得することはできない。	1	3	5	3	3	6
7.実習に先立って、十分に知識を教えることは必須である。	5	6	4	3	0	3
8.教授者が厳しければ厳しいほど、学習者はやる気を出す。	0	0	3	3	6	9
9.試験をしなくても、教育評価は可能である。	2	8	2	3	5	1
10.教育の改善を促進させるには、まず改善のためのプラス因子を増やす方が肝要である。	5	0	3	3	1	9

太文字・・・期待する回答

おわりに

この WS は FD 実施委員会主催で、平成 25 年度から開始した。新人・中途など、様々な形で本学の教員となられた先生方に、大学教育の基本であるカリキュラムプランニングについて知っていただくとともに、交流のチャンスの一つになれば良いのではないかとこの考えで始めたものである。新人教員の先生方は、学生／大学院生として、自ら高い研究成果を出すために最大限の努力をしてこられた方々ばかりであるが、教育者という立場になって、広い視野で本学の教育にあたっていただくために、大学教育のスタンダードを学ぶきっかけとしていただきたい。また、経験豊富な先生方には、これまでの教育経験をご披露いただき、皆で共有し、本学の教育レベル全体を上昇させることができれば大変うれしいことである。

昨年度の第一回は、ミニ FD で 1 日のプログラムで実施いたしました。また、あいにく天候が悪くなり、さらにショートカットになってしまいました。本年度は天候にも恵まれ、1 日半のプログラムとして充実したものを行うことができました。今年度は、パフォーマンス課題ならびにパフォーマンス評価にも取り組みました。これは、従来の GIO/SBOs ならびに taxonomy を中心にしたカリキュラムの考え方を更に発展させたものです。学生が一連の操作として実施する課題の評価を考える上で、非常に重要な考え方となっています。ルーブリック評価表の作成がスムーズに進んだので、大変良い成果が出たものと思っています。学生評価には、ポートフォリオ評価の利用も始まっています。新しい評価の手法を積極的に取り入れ、効果的な学生指導ができることを期待しております。

大学教育の問題点の KJ 法のプロダクトには、本学がかかえる多くの問題点指摘がなされました。一枚一枚のカードのどれもが重要な指摘をしてくれています。いずれも、大きな問題で、継続的に考えていかなければならないものばかりです。プロダクトを用いて、若干の時間を使って総合討論し、問題点の共有をしましたが、「対応策」「解決策」をじっくり考えるだけの時間を設けることができませんでした。これからの教育活動のなかで、また、継続的に行われる FD 活動の中で、皆で問題点を共有し、解決の方向に向かうことを期待したいと思います。

WS 研修では、WS 終了後に報告書を作ることが、頭の整理と内容理解に繋がるものとされています。報告書の作成を持って WS の全体像ともいえるものです。今回はミニ WS であり、年度初めの多忙な時期ですので、これを行うことができませんでした。是非とも、テキストを繰り返し見直していただき、自己研鑽していただくことを期待いたします。

FD 委員会では、今後も良質の FD 活動を提供していきますので、皆様方の積極的な参加を期待いたします。

タスクフォース 大野尚仁